

新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

令和4年8月相談支援事業、令和5年4月訪問看護事業を立ち上げ、法人としても早いもので今年3年目を迎えます。日頃からお世話になっている皆様のおかげです。昨年より、地域移行支援に取り組ませていただく機会を多くいただき、相談支援で退院支援を行い、地域生活を訪問看護と協働でサポートしていく体制を作ってきました。今後も、この取り組みに尽力していく所存でございます。どんな障害があっても、地域で暮らしていける社会を目指して参ります。



深谷太一弁護士 連載コラム

テーマ「米国のピア・レスパイト」

2021年、米国のピア・レスパイト（peer respite）を見学させていただきました。「レスパイト」は、一時的な休息などの意味ですが、ここでは、クライシスになった人が1週間などの短期間、滞在して、サポートの受けられるような場所を指します。「ピア」は仲間などの意味で、専門家ではなく、当事者が主導して運営やスタッフをしていることを指します。ピア・ラン・レスパイト（peer run respite）とも言われます。

見学した2軒は、郊外の一軒家で、ゲスト＝利用者がいなければ、普通の民家と言ってもおかしくない家でした。説明を聞くと、精神科病院や刑務所に入ってしまうようなクライシスの時に、自らの希望により泊まることのできる場所とのこと。24時間当事者のスタッフがいて、個人に応じたサポートも受けられるようです。

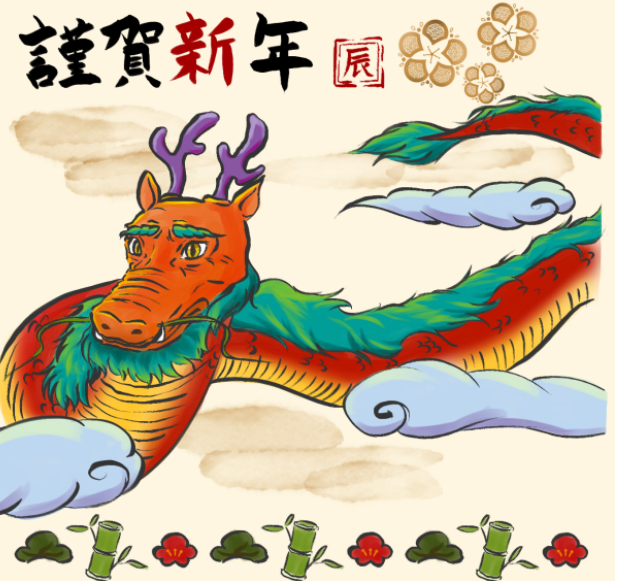
皆様のご関心がありましたら、次号でもピアレスパイトの紹介を続けます。質問大募集です。以下のリンクから、あるピアレスパイトの動画がご覧になれます。<https://shorturl.at/cgkZ3>

戸田のつぶやき

日本病院・地域精神医学会（神奈川大会）報告

令和5年12月16～17日の2日間に上記の学会に参加しました。演題は「専門家に求められる対話的関係の再考～精神障がい者家族が語るライフストーリーを通して～」について修士論文でまとめたものを発表してきました。

通称、病地学会と呼ばれるこの学会は、会員に医師・看護師・精神保健福祉士・作業療法士・家族・当事者・研究者等、多様な立場の方がいます。多様な立場の方々が集い、現状の精神保健福祉医療に関する問題や人権について熱い議論が行われる貴重な場だと実感しております。是非、ご興味のある方はホームページ等ご参照ください。

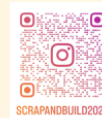


皆様のご健康とご繁栄を心からお祈り申し上げます

相談支援事業所ヨハク・訪問看護ステーションヨハク



＜公式LINEはこちら＞



＜公式Instagramはこちら＞

おすすめ BOOK

「その島のひとたちは、ひとの話をきかない-精神科医、自殺希少地域に行く-」

森川すいめい著

本書に出会ったのは、精神科病院実習中の21歳の時であった。自殺の少ない地域には何があるのかを探る旅に出た精神科医が様々なヒントを得て、書き記した本である。私は本書の終盤に紹介されている「オープンダイアログ」という考え方を知り、衝撃を受けた。それは、「そんな当然なことを」と感じると同時に、感動の余韻が残る感覚を覚えた。しばしば精神保健福祉医療の分野で扱われる問題行動（自殺等）について、対象者に対するアプローチばかり考えられていたが、オープンダイアログの考え方では対話主義に依拠し、対話を継続することに重心を置く。それは支援者と呼ばれる人々への態度変更を求めるものだった。助言したり、相手を変えようとするのではなく、不確実なものを共に乗り越える態度である。

文責：戸田竜也（代表）